

日本刀文化の 継承と創造

第13回 新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会
日本刀の匠たち
2023.10.28[土]—12.17[日]

刀 剣を造る文化は現代に脈々と受け継がれています。現代の匠たちによって生み出された日本刀は、神社仏閣に奉納されたり、美術的に鑑賞されコレクションされたり、子供の誕生を祝う守刀として誂えられるなど、武器としてではない活躍の場を得ています。

今春、それぞれが高い専門性を持つ日本刀製作に携わる職人たちの技術の向上と伝承を目指して、公益財団法人日本刀文化振興協会が主催する新作日本刀、研磨、外装のコンクールが開催されました。本展ではその受賞作を展示します。日本刀の完成までの行程、つまり作刀、刀身彫刻、研磨、刀装具、白銀、白鞘、柄巻き、鞘塗り、拵の各部門それぞれに力作が揃いました。

コンクールで最も名誉ある文部

科学大臣賞を受賞したのは、研磨部門の阿部聡一郎氏でした。刀身の地刃の特徴を見極め、その魅力を最大限に発揮させるのが研師の仕事です。経済産業大臣賞を受賞した河内一平氏は刀鍛冶で、江戸時代末期の新々刀に倣った刀を打ち上げています。日本刀文化振興協会会長賞を受賞した松本豊氏は、刀身を納める拵のうち兜金、鐔、その他金具一式を手掛けた白銀師です。

日本刀の職人たちの仕事は新作日本刀に限りません。各地に伝わる刀剣類には「刀身に錆が出てきた」「鞘が割れてきた」「鞘塗が剥げてきた」など、経年劣化などによる諸々の不具合が出てきます。その際にはふさわしいメンテナンスを行い、古刀を次世代に伝える活動にも尽力しています。

現在、私たちの生活では日本刀に触れる機会はあまり無いかもしれ



本展の写真提供：トム岸田、日本刀文化振興協会

れません。「それぞれの職人はどんな仕事をしているのだろう」そんな興味をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。本展は、各部門の職人によるギャラリートークや

刀剣のご相談会など、日本刀の匠たちの仕事を知るイベントが盛りだくさんです。この機会をぜひお見逃しなく。

(学芸グループ主任 志田理子)



白銀／日本刀文化振興協会会長賞
松本豊

ミュージアムショップ

刀匠の作品が手に入る貴重な機会です！

「日本刀の匠たち」展会期中（10/28-12/17）のみの販売。



左／宮入小左衛門行平 切り出し小刀 88,000円
右／河内一平 紙切小刀 99,000円



文鎮 10,000～15,000円

ご希望のことはを刀匠がプレートに刻む「銘切」を行います。
日程：10/28(土) 10:00～16:00、
10/29(日) 10:00～15:00
会場：佐野美術館講堂
定員：各日40名
※整理券は当日10:00より1階ミュージアムショップにてお求めの方に配布します。
※銘切は原則6文字まで。



佐野美術館オリジナル商品

新登場のTシャツ、リニューアルしたマスキングテープなど人気の刀剣グッズが充実！

名物 松井江
Tシャツ
(S、M、L)
2,400円



蜻蛉切
マスキングテープ
各510円

刀剣
チケットホルダー
各495円

蜻蛉切 原寸大
刀剣クッション
4,350円

